

核データ部会、炉物理部会、加速器・ビーム科学部会、
「シグマ」特別専門委員会合同セッション
「原子炉・加速器施設の廃止措置と放射化核データライブラリの現状」

(2) 九州大学加速器実験室の廃止

(2) Decommissioning of Kyushu University Tandem Accelerator Laboratory

*寺西 高¹, 野呂 哲夫¹, 森田 浩介¹, 若狭 智嗣¹, 藤田 訓裕¹, 坂口 聡志¹, 岩村 龍典¹
¹九州大学大学院理学研究院(理学部)

九州大学理学部では原子核物理の研究・教育用に最大ターミナル電圧 11 MV のタンデム加速器を開発し、約 30 年間運用してきた。理学部のキャンパス移転が 2015 年 9 月末までに行われたことに伴い、箱崎キャンパス（福岡市東区）の原子核実験室は廃止し、その機能を伊都キャンパス（福岡市西区）の加速器・ビーム応用科学センターに移し、そこで後継器となる 8 MV タンデム加速器を新たに設置した。

原子核実験室では 2014 年 12 月末にタンデム加速器の最後の運転を停止し、2015 年 1 月末に加速器廃止届および廃止措置計画書を原子力規制委員会に提出し、廃止措置に取りかかった。これまでに、放射化物の評価、加速器・ビームラインの解体、再利用物品の新キャンパスへの移設を終えたところで、現在、残留放射化物の廃棄と建物の汚染検査を実施しつつある。廃止措置は 2016 年 9 月末に完了する予定である。本講演では、タンデム加速器施設における放射化の評価方法を中心に、廃止措置の概要を報告する。

*Takashi Teranishi¹, Tetsuo Noro¹, Kosuke Morita¹, Tomotsugu Wakasa¹, Kunihiro Fujita¹, Satoshi Sakaguchi¹, and Tatsunori Iwamura¹

¹Faculty of Science, Kyushu University